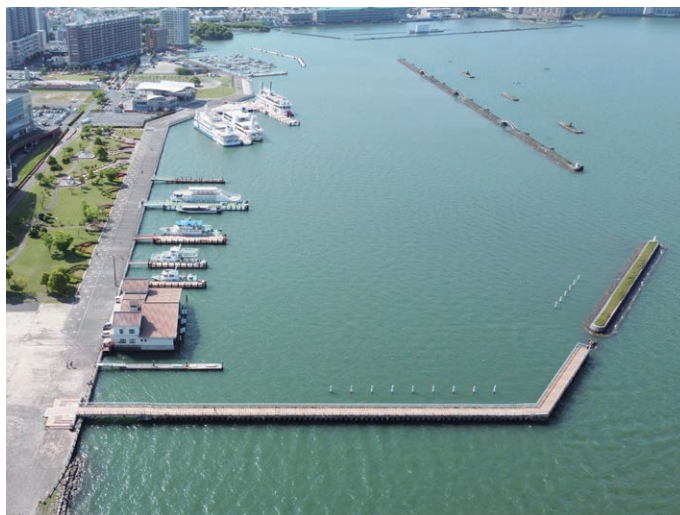


# 大津港<sup>®</sup>



滋賀県土木交通部流域政策局  
河港管理室

〒520-8577 大津市京町4-1-1

☎077-528-4161

URL : <https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kendoseibi/kasenkoan/19186.html>

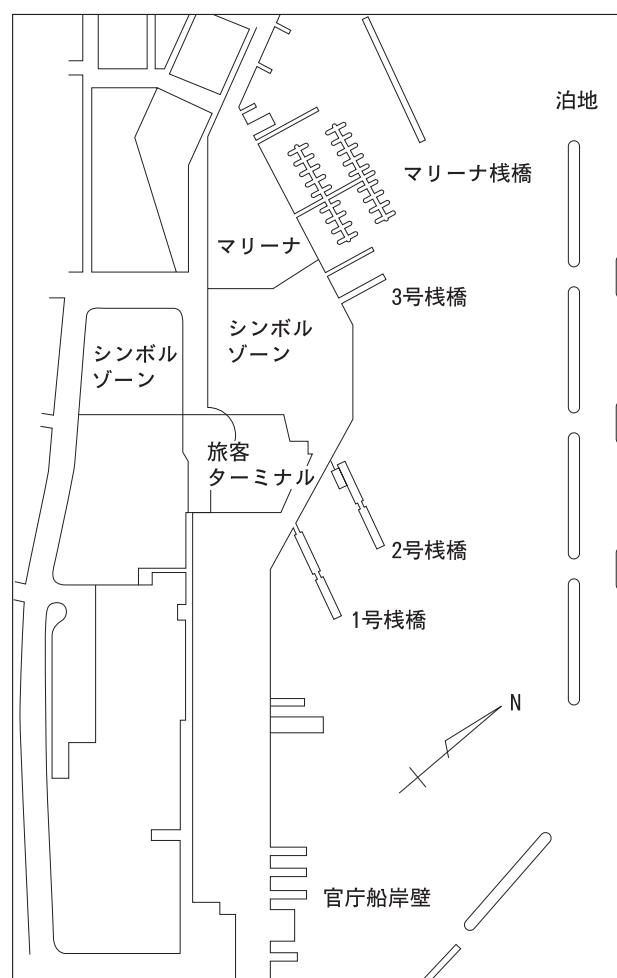
## 1. 概況

大津港は、古代天智天皇が近江大津宮に還宮され、大津宮の港としていた昔より物資や人の湖上輸送の拠点港として重要な役割を果たしてきました。天正14年(1586年)に豊臣秀吉が坂本から大津に城を移した頃には港も背後地の浜大津地域一帯も非常にぎわいで、隆盛を極めたと云われています。

その後、水運の要衝として栄えた港も明治13年(1880年)の京都-大津間の鉄道開通を始めとした陸上交通の発達とともに、次第に湖上運送が衰退してきました。代わって明治27年(1894年)には湖上定期遊覧船が就航するなど優れた琵琶湖の自然景観を活かした湖上観光が主流となり、大津港はその拠点港として賑わいを取り戻してきました。しかしながらその後、大津港を訪れる観光客は減少の一途を辿っており、湖上遊覧船も大型船が次々と建造され、マリナーレジャーの急激な普及によるプレジャーボートの増加等により、従来の狭隘な港湾に支障を来すようになってきました。

このため滋賀県では、大津港を観光レクリエーション港としての機能の拡充と浜大津周辺の整備に伴うシンボル空間としての位置づけを行うため、昭和60年に21世紀を見通した大津港改修整備の基本計画を策定し、琵琶湖総合開発計画の一環である水位低下対策事業とあわせて事業に着手しました。整備事業は平成10年度に完了し、周辺の環境と調和した琵琶湖観光の玄関口としてふさわしい港として生まれ変わりました。

一方で完成から25年から30年以上が経過した今、老朽化が進行したうえに、建設当時に想定していなかった新たな需要に応えられていない現状にあり、こうした現状に応えるため、令和7年3月に大津港活性化・再整備基本構想を策定し、大津港のにぎわい創出を目標に、ハード面、ソフト面の整備をすすめています。



## 5. マリーナ

区分 名称など	施設規模			収容能力					上下架施設 (能力、基数)	泊地水深 (m)	開設年度	関連施設
	陸域 (㎡)	水域 (㎡)	防波堤延長 (m)	合計 (隻分)	陸上保管		水面保管					
					ボートヤード (隻分)	艇庫 (隻分)	浮棧橋 (隻分)	固定棧橋 (隻分)				
滋賀県大津港マリーナ 〒520-0047 大津市 浜大津5-3-10	5,100	-	-	200	140	-	60	-	ボートリフター レールラン ンプ			マリーナ管理棟 修理棟 管理事務所